

C-18 商品の位置が分かりやすい書籍・CD 検索システム

前田 理奏

ビジュアルインターフェース研究室

1. はじめに

書籍や CD をあつかう大型の販売店には、商品の検索端末が設置されている。しかし、現在利用されているシステムの多くは、検索された商品が店舗内にあるかどうかを表示するだけのものだった。そこで、本研究では、検索システムを利用する客側が、よりあつかいやすく、瞬時に商品の位置を把握できるようなシステムを製作することにした。

2. 研究の概要

従来の検索システムでは、検索された商品の分類番号などを表示するだけのものが多く、客はその番号などを元に、さらに店内の見取り図から商品の位置を割り出す、といった不親切なものが多かった。

そこでまず、客にとってよりわかりやすいシステムはどのようなものかを検討し、以下の2点に重点を置いてシステムを製作することにした。

- ・ 検索結果の視覚化表示
- ・ 操作の手軽さ

商品の位置をもっともわかりやすく表示するには、店内の見取り図に直接位置を表示させるのが好ましいと考えた。また、検索された商品の詳細な情報も同時に確認できる方が、より効率的である。

複雑な操作は用いずに、画面を見ただけでも操作方法が理解できるよう、画面構成はシンプルなものとした。

3. 試作したシステムの概要

システムのプログラムは、H S P (HotSoupProcessor) というインタプリタ言語を使用して作成した。

システムを設置する店舗側の見取り図の作成方法は次の通り。

- ・ 店内の見取り図を JPEG、GIF などの画像情報に起こし、登録する。複数のフロアを持つ店舗は、それぞれのフロアへのリンクも登録する。
- ・ 棚ごとのマークを見取り図上に設置し、そこに陳列される商品の情報を登録。
- ・ 登録情報は、商品名、作者、価格、パッケージ画像、その他の情報など。音楽ソフトなどであった場合、試聴用に音楽再生ファイルへのリンクも可能。
- ・ マークのアイコンも、店舗側によって指定できる。

検索システムを利用する客側は、店舗側が作成した見取り図の文字入力欄に検索したい文字列を入力するだけである。目的の商品と情報の合致した棚のマークは、拡大縮小のアニメーションによってその位置を強調表示する。また、マーク自体をクリックすることで、その棚に陳列された商品の情報を並べて閲覧することも可能である。ジャンルごとに棚を設置する店舗では、ここから欲しい商品を探すこともできる。

4. まとめ

見取り図上にデータベースへのリンクを設置するという方式をとったことで、CD や書籍を販売する店舗に限らず応用できるものとなった。ただ、現状のシステムでは、情報の登録時に膨大な手間がかかってしまうことから、あまり実用的といえるものではない。今後、バーコードから商品の情報を読み取る方法や、すでに店舗側にある商品データベースを利用する方法を検討していく。